



最上エコボリスの実現
= 豊かな自然 輝くもがみ =

小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第16号

平成21年12月22日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

第4回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました



11月10日(火)午後2時から、山形県建設会館において、第4回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

今年度調査の中間報告と環境影響予測の考え方等について、ご検討をいただきました。今回の協議会には12名の委員全員にご出席いただきました。

第16号ではその内容の一部についてご紹介いたします。

環境保全協議会は、最上小国川の豊かな環境を守るための方策を検討します

第4回環境保全協議会では、右の内容について説明し、各委員から活発な意見をいただきました。

- 1) 第3回協議会における指導事項と対応
- 2) 今年度の環境調査状況について(中間報告)
- 3) 環境影響予測の考え方について
- 4) 流水型ダムの先行事例紹介

1) 第3回(前回)協議会における指導事項と対応

【指導事項】

猛禽類調査は5種(クマタカ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ)に絞って行うこと。
猛禽類は平成20年度に巣立った幼鳥と平成21年の行動圏の解析をしてほしい。

藻類が最も繁殖する春先5月頃の定期調査があったほうがよい。

ダムによる影響の把握方法や検討の方針が必要である。また第5回以降も濁水モニタリングを継続し、環境影響を検討してほしい。

【対応】

5種を調査対象として今後も調査をおこないたい。

行動圏などについて解析を行う。ただし、H21年は確認例数が少ないため、過去7年の確認にもとづき、構造を解析したい。

来年度の融雪終了直後(5月連休前後)に調査を行うことを検討したい。

今後も濁水モニタリングを継続し、環境影響を検討したい。

2) 今年度の環境調査状況について(中間報告)

猛禽類(もうきんるい)の調査について

猛禽類調査は、専門家の指導を基にクマタカ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバの5種を調査しました。

この中でクマタカ以外は、ダム予定地周辺での営巣は確認されていません。これまでの調査でクマタカが周辺での営巣・繁殖が確認されているため、詳細な調査はクマタカを中心におこないました。第3回協議会の時、専門家から6~7月の調査でクマタカの繁殖が確認された場合、8月にも調査を行うよう指導いただきましたが、6~7月調査で繁殖が確認されなかったため、事前打合せの結果、8月調査は不要と指導いただきました。



藻類(そうるい)の調査について

藻類調査は、最上小国川と支川で藻類の種類や更新状況を調べました。川の中5箇所の早瀬、平瀬で、藻類が付いているこぶし大の石礫に5x5cmの四角の枠をあてがいブラシでけずり採ります。けずり採ったものから、藻類の種類、総細胞数などを確認しました。この中で総細胞数の結果が裏のページの図です。



この結果から、出水があると藻類は減り、1週間程度で復元することがわかりました。

これまで、藻類の更新について、出水によって石に付いた古くなった藻がはがれると、また新たな藻が生えてきて、更新されるということを説明してきましたが、最上小国川でも、説明とおりの現象が起きていることがわかりました。

【藻類調査のまとめ(中間報告)】

出水による、はがれと更新が確認できました。

最上小国川では、藍藻類のホモエオスリックス・バリアンス(藻の学名)が最も多く生育しています。特に、良質なアユが採れるといわれている長沢橋下流地域では、この種が多く生育しています。

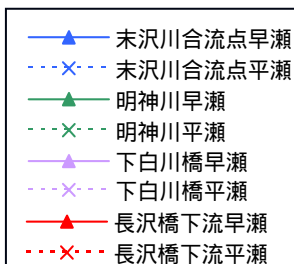
アユのはみあとが多い区間では、砂が混じっていないことがわかりました。



「はみあと」とは、アユが石に生えた藻を食べた時、石に付いた跡(あと)のことです。

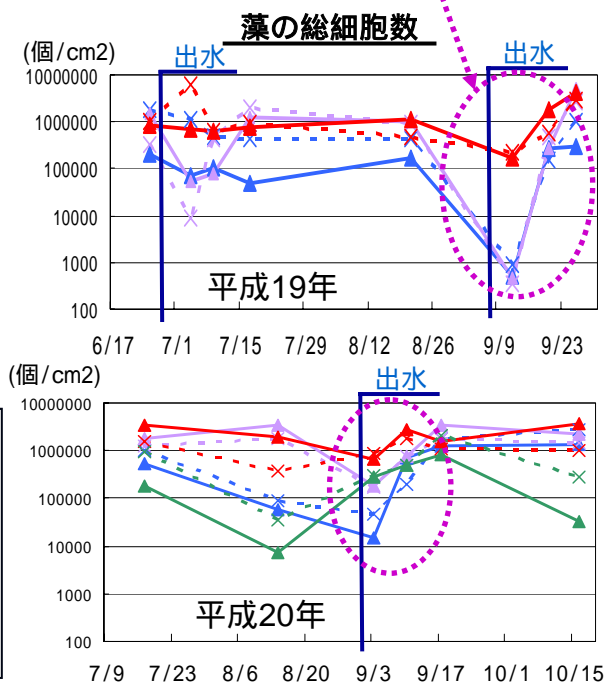


はみあと調査



藻類調査データ

出水時に古い藻がはがれ、1週間後の調査で、新しい藻に生え替わっていることが確認されました。



環境調査(中間報告)についての委員からの意見・指導事項と対応

【意見・指導事項】

付着藻類とアユの「はみあと」の調査としては、最大の努力をしたと言える。出水による攪乱(かくらん)とアユのはみあととの関係などについて最終的なまとめは、もう少しデータを集めて、論理的に説明した方がよい。

上流と下流の藻類の優占種が違っている点について、要因を調べる必要がある。このため、各地点の流速と濁りの状況について調べたほうが良い。また、ダムができたときの変化を整理してほしい。

クマタカの未沢個体は確認されているのか？

各個体毎に再整理が必要である。

【回答・対応】

➡ さらにデータを集めて解析した上で、まとめをおこないたい。

➡ 各地点の流速と濁りなどについて、まとめたい。

➡ 未沢個体は今年は確認されていない。個体毎に再整理をおこないたい。

次回は「3) 環境影響予測の考え方」と「4) 流水型ダムの先行事例紹介」について、ご紹介いたします

小国川だより第13号で紹介した「向町八区会」に感謝状が贈呈されました

11月26日(木)午後2時半から、県庁にて、「平成21年度山形県県土づくり感謝状」の贈呈式がおこなわれました。

県内で、河川の美化運動や道路の美化運動など、長年にわたる活動をされ、著しい功績のあった方々に対して、贈られたものです。

最上管内では、「向町八区会」を含む、2団体2個人が選ばれました。

贈呈式には、「向町八区会」代表の山口宏さんが出席され、知事からの感謝状が贈呈されました。

おめでとうございます。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。



感謝状を受ける山口宏代表

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
最上小国川ダム建設室 佐藤・高橋
〒996-0002

山形県新庄市金沢字大道上 2034

お問合せ先 電話 0233-29-1407

Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。アドレスは下記のとおりです。

http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html